



## 西念寺

宗 派 浄土真宗本願寺派  
総本山 西本願寺（京都市下京区堀川通り）  
御本尊 阿弥陀如来  
開 創 往古の開創年号不詳  
開 山 往古の開山僧名不詳  
開 基 当寺の開基元知 天正年中西念寺に住職す  
※ 開基：寺を創立した人



### 寺 史

西念寺の開基元知は、大江元就（毛利元就）の第五子元秋（史実とは不一致）の孫にあたる人と伝えられています。

元秋は長州藩の浪士で、武者修業中田中嘉右衛門と称しました。長男帛太郎（安太郎の改名）は、既に加路村民で村の大家だったので、元秋も村民となりました。同家所有の土地は、現今の東善寺境内にありました。

嘉右衛門は武芸修業のため、諸国巡遊中から仏心専念していましたが、天正年間（1573～1592）この地に庵寺を建立し、岡田院（別名観音堂）と称しました。

仏道修業中、東善寺第五世欣誉上人辞去の後に監守に抜擢され、寛永 6(1629)年 8 月 15 日に六世を継承し、中興開山と称せられました。同年 11 月 5 日に死去。墓標は東善寺境内にあります。

嘉右衛門の長男帛太郎（安太郎）には二人の子どもがあり、長男清兵衛は村の大家と称されるようになり、弟元知は浄土真宗に帰依して、天正年間（1573～1592）に加路西念寺の住職となりました。

一世 元知 住職年数、往生年月などは不明。

二世 乗知 住職年数、往生年月などは不明。

三世 善知 寛文 2(1671)年より宝永 4(1707)年まで 46 年間在職。享保 2(1717)年、81 歳で死去。

四世 普完 三世善知の実弟で、宝永 4(1707)年より享保 7(1722)年まで 15 年間在職。享保 17(1732)年 88 歳で死去。

五世 義完 丹後国康雲寺より当山に入寺。享保 7(1722)年より宝暦 12(1762)年まで 41 年間在職し、同年 76 歳で死去。前住をこえて宗学（一宗派の教義・歴史を研究する学問）に精進したといわれています。

六世 秀完 宗学の研鑽に努め、27 年間在職し、天明 8(1788)年に隠居。文化 7(1810)年、86 歳で死去。

七世 秀芳 住職を継承して 3 年後、和州吉野郡大日川村辻室寺にて病没。

八世 了完 但州浜坂村西光寺より迎えたが、在職 3 年で離山し、帰って西光寺 11 世に。

九世 恵完 八頭郡智頭光専寺より迎え、享和 2(1802)年に住職を継承。

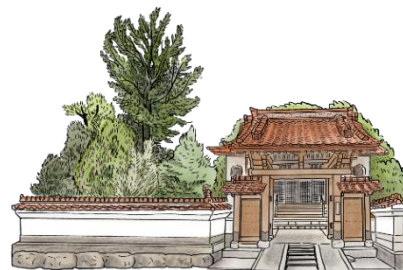
文化 5(1808)年恵完 37 歳、秀完 84 歳、義完 10 歳の時、建立以来百数十年を経て老朽した道場を、現在地に移転建立しました。

恵完は文化 13(1816)年まで住職し、天保 5(1834)年に 76 歳で死去。この時天保の飢饉は既に始まっており、死者は倍増し、8 年には 67 名に達しました。

十世 義完 天保の飢饉の困窮者救済に力を尽くし、元治元(1864)年 65 歳で死去。

十一世 諦完 元治元(1864)年より明治 29(1896)年まで住職。明治初年に智頭より旧屋を求め、解屋して千代川で運び、現在地に庫裏として改築。大正 3(1914)年 80 歳で死去。

十二世 龍拳 倉吉市妙寂寺より明治 23(1890)年入寺。同 29(1896)年住職継承し、昭和 9(1934)年 68 歳で死去。教戒師（矯正施設に収容されている人に対して宗教教誨を行う宗教家）として社会福祉に精進。大正 10(1921)年、正七位・親授一等を国及び本山より授与されました。



出典

賀露町自治会（2009）「賀露誌」